

「内藤先生の家庭セミナー」は 目からウロコ!

FFJの出版物は翻訳ものが大多数ですが、4年前に初めて日本人著者の本が出ました。「内藤先生の家庭セミナー」です。

日本人だからこそ分かる日本人の心の機微があります。本書をテキストに先生から学んだ方々からの感想をご紹介します。

「秘訣は基本に返ること」

吉野 富貴子 (安曇野市)

2週間後に教会学校教師と親御さんたちの懇談会を控え、聖書からのヒントを求めてこの本を手に取りました。

一人一人の背景はいろいろですが、クリスマスチャームの基本に返ることには、あらゆる悩み、苦しみ、問題に対処していく秘訣があることを、改めて知りました。

「子どもに寂しい思いをさせた」

高橋 幸子 (松本市)

神さまが家庭のことをどれだけ大切に考えておられるかをみことばから説いてくださった箇所は、新鮮な驚きでした。「何よりも教会の礼拝・会議・奉仕が一番大事」と信じ込み、子どもに寂しい思いをさせてしまった頃のことを思い出しました。「あの時、この本に出会って

たら、主が聖書の中で言わんとされてきたことを正しくとらえることができただろうに」と、少々悔やまれます。

この本を、今子育て中の若いご両親はもちろん、家庭に対する神さまのみこころを学び、多くの人に伝えていくためのテキストとして兄弟姉妹が用いられるようお勧めします。豊かな文学評論と聖書の知恵の対比も読みごたえのある、楽しい一冊です。



「キリスト教に対する誤解も解ける」

高津 恵子 (佐久市)

私は、自宅ショップ「絵本の店ノエル」を開いています。本書も、クリスマスチャームを築いている友人に1冊、また求道中の若奥さんに勧めてお買い上げいただきました。もちろん私も読者の一人なので、聖書の原則的な教えを分かりやす

く、実際のなクリスマスチャームのあり方などをガイドして下さることを確信しお渡ししました。

サブタイトルの「意外と知らないクリスマスチャームの基本」の通り、クリスマスチャームにならせていただいた今の私でも、目からウロコ状態でした。一般の方々も感じているだろう、ミステリアスなクリスマスチャーム……。以前の私がそうであったように、キリスト教および宗教一般に対する誤解を解くためにも、読んでいただきたい1冊です。

「離れなければ結ばれない」

中屋 有香 (佐久市)

私の悩み……それは、実家の父の事でした。父の決めたことは絶対で、今でもとても怖い存在です。結婚した今でも、私は父の目を気にして生きています。ですから、もしも私がクリスマスチャームになりたいと言ったら、子どもの頃から仏教仏教と言っていた父が、どう思うだろう……と悩んでいたのです。

『内藤先生の家庭セミナー』を読み進めていた時、「第三章 親子ではなく夫婦が基本」という項目がありました。

「離れなければ結ばれない」
「夫婦を独立した単位として見守ってあげなさい。間に割り込むことのないように」

そのフレーズが、私の心のモヤモヤを少しずつ溶かしてくれました。

「私は結婚して、これからは夫婦という単位になった。親は関係ないわけではないが、これからは私と主人との単位で考えても良いのだ」と。父との関係を見直すきっかけとなりました。

「第四章 夫婦の役割は違う」という項目からも刺激を受けました。「女性はアダムの脇のあばら骨から造られた……むしろ彼は失ったものを満たして余りある良き助けを得た」という文章です。

ふと考えました。自分は主人の「良き助け手」となっているだろうか。今のままでは、ほど遠い。改善すべき点が沢山あります。それを書き出し、少しずつ「助け手」となる努力をしました。今でもこの生活は続いています。

「第五章 夫婦の性」の中に「姦淫と品行に関する戒め」があります。近頃、不倫をする人が多いとよく聞きます。まるで、不倫という行動がアクセサリーのように、若者の間では結婚している人でもかまわずおつきあいをしていると言います。メディアもそんなタイトルであふれています。

そんな中、私は、この章の項目は大切だと思いました。「性はきよいものだけれど、それは夫婦の間だけで守るべきものだ」とは、当たり前なのですが、改めて考えさせられます。